

雷の子

カトリック町田教会
町田市中町 3-2-1
電話 042-722-4504
FAX 042-722-4512

いかずちの子

<http://www.machida-catholic.jp/>



「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む！その名はインマヌエルと呼ばれる」この名は「神は我々と共におられる」という意味である。

マタイ 1-23

見えるものによつて、見えないものを

主任司祭 林 正人

私が今まで観た映画の中で一番好きな作品は、チャップリンの『街の灯』です。盲目の花売り娘に恋した「チャーリー」が、彼女を助けるために奮闘する物語で、個人的にチャップリンの最高傑作と

思っています。この映画、名シーンの連続なのですが、観た人に一番深い印象を与えるのは、やはりラストのシーンでしょう。目が見えるようになった娘と、刑務所から出てきたチャーリーの再会。娘は

はじめ、みすばらしい風体の男を笑いますが、彼の手を取った瞬間、その男が、自分に目の治療費を与えてくれた恩人だと悟ります。「あなたね」「見えるの？」「ええ、見えます」。この三つの字幕と、見つめ合う二人の表情だけで、世界一感動的なラストシーンを創造り上げたチャップリンは、やはり天才です。ところで、このラストは、「世界一感動的」と同時に、

「世界一残酷」なシーンとよく言われます。「ついに、恩人を見ることができた」「しかしその人は、ボロボロの身形の浮浪者だった」。つまり娘は、目が見えるようになったことで、目の前の「現実」をも、見るようになったのです。

しかしながらこのシーンに、もう一つの現実、否、「真実」を見出すことはできないでしょうか。確かに、娘の肉眼で見えたのは、哀れな男の姿、残酷な現実でした。けれども、世の中で確実に、一人の人が己を棄て、自分のために尽くしてくれた、その愛が今ここに存在するという「真実」を、彼女は「見た」のだと。

ここに、福音書のエピソードがオーバードラップしてきます。『ヨハネ福音書』九章の、生まれつきの盲人の目をイエス様が開く物語です。神学生時代、この話を読んでいた、あることに気付きました。それは、この盲人が見えるようになったことを、誰も喜んでいないということです。話中に彼の両親も登場しますが、父母でさえ、自分の息子に起こったことを喜んでいません。更に、ファリサイ派たちは、「罪人のお前が、どうして見えるようになったのだ」と、高圧的に尋問するばかり。おそらく彼は、見えるようになったことで、世間の歪んだ現実をも目の当たりにしたことでしょう。

しかし、彼は同時に、「真実」も見出しました。父である神が、始めから、常に自分を見つめていて下さったことを。見た目には他の人と変わらぬ一人の青年を通して、彼は「愛」を、「神そのもの」を「見た」のです。

行事サポートチームの立ち上げ

運営委員 久保田 伸

今年もすでに11月になりましたが、町田教会ではこれまでに新年会パーティ、復活祭パーティ、林神父歓迎会、野口神父初ミサ後懇親会、長寿感謝ミサ後懇親会などの行事（パーティ）を行ってきました。年末はクリスマスのお菓子の詰め合わせです。町田教会の行事は多くの方に協力をお願いいただき、お料理やケーキ、デザートを持ち寄りで美味しく楽しいパーティを開けています。行事（パーティ）と一言で言いますが、どのような準備をしているか少しご説明します。まず、どんな行事を開くか企画を考え予算を立てます。次にお料理の持ち寄りや当日調理の依頼をし、当日の追加

二千年前、人の愛が失われた、凍えた世界に、一人の赤ん坊が誕生しました。この世の寒さに震える多くの人々は、その姿の中に「愛なる神」を見ました。毎年、クリスマスに、飼い葉桶の中に寝かされる嬰兒。その見える姿の中に、私たちが、世界の人々が、「愛なる神」を見ることができまうように。

ます。

この問題を解消しようと、10月末から教会行事サポートチームを立ち上げました。行事サポートチームには、行事実施の実行役を担ってもらうこととなります。サポートチームに参加いただいた皆様には裏方のお仕事をしていただくことになり、感謝していただきます。一緒にワイワイやっていただけの方ご参加ください。運営委員会が町田教会を開かれた教会となるよう力を発揮できるか、運営委員のお互いの励ましと皆さんのご協力が必要です。

運営委員会を温かくながい眼で見守ってくださいね。

神の愛で輝いたヤコブ祭 実行委員長 福富 英里子

この度「ヤコブ祭二〇一七」の取りまとめをさせて頂きました。二〇一六年の復活徹夜祭で念願の受洗。断れず二〇一七年度の地域ブロック連絡員に。ウツカリと議長職を引き受けると、ヤコブ祭実行委員長職という特大のオマケ付き（驚！）。いきなり巨大な山がドーン！と目の前に聳え立ったのです。

高齢化で縮小方向だった町田教会のバザー。販売部門に文化祭的要素を加えた「ヤコブ祭」の形になったのが二年

前の前回。沢山の力を集結させて創る集い。諸先輩が築き上げた枠組みを活かしつつ、更により良いものになりたい。参加者が心から楽しかったと思えるお祭りになりたい。その一心で準備を重ねました。大切にしたのは「一体感」。教会家族が一堂に会する貴重な機会。楽しく過ごせる要素を目一杯盛り込みました。

教会全体を盛り上げるために公募したキャッチフレーズは、田中力さん考案の「招かれて主に結ばれよう」に決定。未来を担う「宝」である子供達。輝く姿が見たくて、宝探しや手話による林神父様との共演を企画。教会まで足を運ぶ機会の少ないつくし野天使幼稚園の園児や保護者にも協力・参加してもらいました。

ギターのお得意な林神父様が全体合唱の伴奏を快諾下さり（更にはフィリピンダンスの極秘練習・サプライズ出演も！）、販売部門・発表部門のエントリーも出揃って、町田教会ならではの魅力的なプログラムが完成しました。

当日はあいにくの雨模様。配置変更や信徒ホールの大混雑、ご飯物の不足などでご不便をおかけしましたが、教会は活気と笑顔が溢れ、神さまの愛で温かく輝いていました。終始柔軟に対応下さり、当

日は力一杯盛り上げて下さった林神父様。「思うようにやってみて！」と、強く後押しして下さいました副委員長の木原桂子さん、中山恵さん。実行委員の皆様。力添え下さった皆様。それから、放置気味でもめげずに、思う存分準備させてくれた私の家族。ヤコブ祭は、私にとって「愛」そのものでした。本当に有難うございました。

ヤコブ祭収支報告

収益金219,141円全額を町田教会の建設営繕積立金に充てさせて頂きました。皆様のお力添えを賜りまして誠に有難うございました。

長寿感謝のミサ (10月29日)



特別寄稿

ミサについて

私は、子供のころから「侍者奉仕」をしていたので、「ミサ」の奉仕には慣れていたはずですが、自分が司式となりますと、勝手が違うものです。ミサは「生きていく典礼」であるため、毎回、新たな発見と良い経験を積むことができます。

ただ、今でも「奉献文」の中の「聖変化」の場面は、特に緊張します。聖霊が何でもないパンをイエス様へと聖変化させてくださる「聖体の秘跡」は、私たちにとって中心の信仰です。「聖霊」と「キリストの言葉」によって聖別された「御からだ」と「御血」は、私たちの心を癒し、体を強め、神様に向かうよう招かれています。「聖変化」は「エピクレシス」（聖霊の

八王子教会助任司祭 パウロ・野口 邦大

働きを求める祈り」と「キリストの言葉」が中心となり行われますが、この箇所だけが「聖変化」ではなく、「ミサ全体」を通して、「聖変化」は行われています。七つの秘跡の源泉が「教会」と言われるように、共同体（教会）で行われる祈りが、まさに感謝の祭儀（ミサ）となり、イエス様の受難と復活を記念し、私たちも「永遠の命」に与ることができるのです。

教会共同体がミサに集い、ここに集まった人の信仰が生き生きとしたものであればあるほど、共同体で行われる秘跡はもっと恵み豊かなものになると言われます。私も皆さまと共に、「神の国」の発展の一端を担うことができれば幸いです。





十本の道

マリア・ファム・シュン・ユン

「クリスマス」と聞くと、みなさんはどんなことが心に浮かんでくるでしょうか。馬小屋、聖家族、ぴかぴかな樅の木、さらに家族や友達と一緒にの楽しいパーティー……。

今年もクリスマスが近づいてきましたね。今、私もたくさんさんのクリスマスの出来事を思い出しています。その中から一つお話ししましょう。

クリスマスの迎え方はいろいろ異なりますね。私は在日なので、異なることを強く感じています。私がベトナムで生活していた所（ベトナムの南の方にある B u i M o n 教会）では、クリスマスはとてもにぎやかです。特に教会は本当に素晴らしいです。ご紹介しましょう。

教会を中心にして十本の道があります。一本の道沿いに七十五軒ぐらいの家があります。それぞれの道の一番良い場所に一つの大きな馬小屋を作ります。そのために毎年のクリスマスは二か月前に、クリスマスを迎えるための相談会を行います。各家族から一

人代表として会議に参加し、計画を立てます。会議の終わった次の日から、馬小屋を作り始めます。家族のだけれども、自分のできる部分を、できる時間に参加して作ります。自分の仕事の都合があるので、普段の日はあまり参加できません。しかし、週末には、結構大勢集まります。土曜日と日曜日の雰囲気は活気にあふれています。子供たちも大喜びしています。子供たちを思い出すと私もどきどきし、若返ってきます。

また、みんなの協力を応援するために、毎週日曜日の夜に小さなパーティーがあります。馬小屋の前にみんなが集まって、わいわい話したり、歌ったりして楽しい時を過ごします。

馬小屋は、一日経つごとに素敵になっていきます。出来る上がるまでに一か月ぐらいかかります。十本の道の一つづ



道沿いに作られた馬小屋とツリー飾り

つ馬小屋が作られるので、自分たちの道の馬小屋が一番きれいに作られるように、みんな一生懸命です。みんなの協力で完成した馬小屋の道は素晴らしいです。

今年も日本でベトナムの私の教会のクリスマスを思いながら心を合わせて祝います。皆様もよいクリスマスをお迎えになりますように。

ベトナム田舎のクリスマス

マリア・ファム・シュン・ユン

イエス様のご誕生の記念のお祝いでも、国によって、また国の中でも地方によって迎え方は違います。

ベトナムのカトリック信者の割合は日本より多くて、クリスマスは大変荘厳な祝日です。都会では二十四日の午後から二十五日までこの道も隙間がないほど人でいっぱいなんです。ですから、もし夜のごミサに与りたいならば、早く出発しなければ絶対に間に合いません。

どこの教会にも馬小屋がきれいに飾ってあります。私は都会で一回しかクリスマスを迎えたことがありません。都会はきれいに飾ってあり、にぎやかですが、心から喜んで主のご誕生の意味を意識しながら祈る人もいますが、そうでない人の方がたくさんいま

す。クリスマスは飲んだり、遊んだりする一つのお祭りだと思ふ人が多いです。

ところが、私の所は田舎なので、そんなににぎやかではありませんが、とても楽しいです。クリスマスの前、みんな教会を掃除したり、馬小屋を作ったりします。そして一番大切なのは心の準備です。神父様が告解所に座つてくださり、みな順番にゆるしの秘跡を受けます。

そして迎えたクリスマスの夜は、八時と真夜中十二時のごミサがあります。その間、みんな教会で食べたり、楽しくして過ごします。真夜中のごミサの後は、お互いに「メリークリスマス！」と言い、馬小屋の前で祈つてから家に帰ります。

その翌日の朝十時ごろに、またごミサがあります。その日の昼食は、三、四家族ずつ一緒にします。信者でない家族も一緒に楽しく昼食をします。家族的な雰囲気とてもあたたかいです。

日本にきた最初の年の私はとてもホームシックになりましたが、今はもう慣れました。今はクリスマスが来る度に、できるだけ囲りの人たちと、また故郷のみなさんと共に心を合わせ、喜んでイエス様を迎えたいと思っています。

チケットのいるミサ

マリア・ファン・ティ・タム

「今年のクリスマスは、どこでミサに与りたいの」と先輩に聞かれました。私が「カテドラルのミサ」と答えるのと、「そうだったら事前に教会に入るチケットをもらわない」と先輩が言いました。「えっ、教会に入るのにチケット？」と、私は驚きました。皆さんもびっくりするでしょ！

これは六年前の話です。ベトナムで一番古い町の中心部にある教会のことです。

私は勉強のためにここに来たばかりで、何も分かりませんでした。教会は私が住んでいた所に近いので、直ちにチケットをもらいに行きました。教会の受付で、私はいろいろ質問されました。

「あなたは信者さんですか」「洗礼を受けましたか」「じゃあ、確認のために、主の祈りか、アヴェマリアの祈りを唱えてください」と。私は言われた通りにやり、チケットをもらうことができました。が、どうしてチケットが必要なのか分からないので、受け付けの方に尋ねました。そして納得しました。

毎年のクリスマスでは、この教会に集まる人がものすごく

く多いそうです。その中に信者さんではない人がたくさんいます。それで、もし自由に入ったら、かなりの信者さんが外でミサに参加することになります。もちろん、信者さんでない人が教会に入れないうちではありません。チケットを持っていく人が全部中に入ったら、ドアはそのまま開いています。

ようやくクリスマスの日が来ました。教会の雰囲気から形まで、私の故郷と全く違います。

まずは、教会の周りの道がすごく混んでいました。バイクと車が動けないくらい渋滞していました。

そして、教会の庭はたくさん馬小屋とイルミネーションで飾られていました。

時間はまだ早いのに、大勢の人が集まり、教会の周りで写真を撮ったりしていました。

夜九時から、教会の中でイエス様のご誕生のようすをあらわす劇を二時間ぐらいいやりました。その後ミサが真夜中まで続きました。

私にとって、これは家族と離れて過ごす初めてのクリスマスでした。今も家族と離れて生活しています。けれども、もっと大きな家族が来て、毎年、シスター方と姉妹とクリスマスをお祝っています。

あたたかいクリスマス

マリア・グエンティリエン

クリスマスが近づくとつれて、私はたびたびベトナムでのクリスマスをお祝いします。

クリスマスと言えば、寒い季節だというイメージが浮かんできますね。確かにそうです。でも、冬の寒さの中でクリスマスは何か温かさをもたらしてくれることを私はしばしば実感しています。別の言い方をすると、クリスマスは恋人同士のデートの季節とも言えますね。

それでは少しベトナムのクリスマスについてお話ししたいと思います。

私の教会は田舎にあります。だからといって静かではありません。クリスマスを迎えるために一ヶ月前から準備をし、飾り始めます。飾りだけではなく、聖歌隊も一生懸命毎晩歌を練習します。

二十四日の夜は、毎年いくつかの出番があります。それはみんなが一番楽しみに待っていることです。何かあるか？ 劇かな？ 踊りかな？ みんなが楽しみにしながら教会に集まっています。

いつの間にか数えきれないほどの人々が、信仰のあるなしに関わらず教会に集まり、クリスマスをお祝いします。

教会の集まりが終わったら、各地区でまた集まり遊び続けます。各地区でも馬小屋を飾っているの、青年たちはそこで次の日まで大さわぎをして楽しみます。

また、カトリック教会では、二十四日の真夜中のミサがあります。イエスさまが誕生された夜です。

私にとってクリスマスの一番の喜びは、この夜中のミサです。イエスさまが生まれることになる幼子の泣き声、羊の鳴き声をミサの中で再現するのは、ある人が幼子の声を出し、ある人は羊の声を出すのです。教会の鐘を一齐に鳴らし、みんなが一緒に聖歌を歌って、幼子イエスの誕生を祝います。その瞬間は何とんでもないような雰囲気になります。

クリスマスの間、教会では馬小屋を礼拝する習慣があります。そこで、みんなが一緒に聖歌を歌ったり、お祈りしたりします。

イエスさまは、みんなのため、すべての人のためにお生まれになりました。だから信仰があるなしにかかわらず、クリスマスは、一人一人を結び合わせ、温かさをもたらす季節だと私は思います。

みなさん、クリスマスおめでとうございます!!

ベトナムでのクリスマス

マリア・グエンティリエン

私は日本に来て三年目になります。日本をまだ知らないときは、日本でクリスマスとかお正月を迎えるのは、どんなかなあと思っていました。修道院で二回クリスマスを迎え、やっぱり違うことが分かってきました。そこで、今からベトナムのクリスマスを紹介したいと思います。

何かを行うとき、準備の段取りが一番大切でしょう。それで十二月の上旬から、みな組に分かれて、仕事の分担をします。

ある組は、教会の中の飾り、ある組は馬小屋を作り、また、たくさん星を作る組もあります。そのとき、同時に教会の旗もかけられます。大人だけではなく、子どもたちもすることがあります。それは踊ることです。それぞれ仕事があるの、みんな一生懸命互いに助け合い、喜びのうちに取り組めます。

ほとんどの家では、竹で星を作って、一番高い所にかかります。また、庭に馬小屋を作る家もあります。あるいは、組の中心部に大きな馬小屋を飾ります。星には光をつけ、高い所にかけていくので、それぞれの通りに素敵な星空を

見ることが出来ます。

ベトナムの政府は共産主義なのでクリスマスは休みません。子どもたちは学校に通っています。朝、家で両親は近所さんを招待して一緒に食事をしてお祝いします。午後学校から帰って来る子どもたちも友だちを誘ってパーティーをします。そして十九時頃に教会で大勢集まって子どもたちの踊りとか、劇を見ます。子どもだけではなく、大人も踊ります。年によって違います。劇はほとんど福音の中にあるご降誕の物語です。

その後、真夜中の十二時に、ミサがあります。二千年前の馬小屋の中には、牛の鳴き声、そして生まれたばかりのイエスさまの泣き声もあつたでしょう。そのミサの中で、人の口から出る生ナマの声ですべて再現されます。

ミサに参加する人々は信者ではない人もたくさんいます。毎年、およそ四百〜五百人ほど参加します。教区の教会なら、その二〜三倍ほどの人が集まります。

二十五日の朝にもミサがあります。ベトナムでクリスマスは、カトリックのお正月と言われているんです。だいたい一ヶ月くらいお祝いしています。その間道にはいつもクリスマス音響が聞こえています。

エンブリオの絆

ワン＆オンリーのいのちの会
 東京・町田代表 矢野 秀代
 皆さん、エンブリオという

言葉をご存知でしょうか？
 それは8週までの胎児のこと
 です。身長2センチ、体重は
 1円玉と同じ1gのお腹の赤
 ちゃん。このいのちの萌芽に
 ちなんで命名された円ブリオ
 基金は、ひと口1円の募金を
 原資として、経済的に産みに
 くい状況にある妊婦さんを支
 援し、新しい命の誕生を応援
 する活動です。

「いのちは天からの授かり
 もの」その尊いいのちをお腹
 の赤ちゃんから応援したい」
 との願いを込めて会を立ち上
 げて活動してまいりました。

3年目を迎え、まだまだで
 はございますが、少しずつ活
 動を応援して下さる方々も増
 え、町のあちこちに円ブリオ
 基金を置いて頂けるようにな
 りました。

この運動は全国のボラン
 ティアにより行われ、基金箱
 設置のお願いや、集金、妊娠
 の悩み相談に寄り添いながら
 無事出産にこぎつけています
 町田でも、行きつけのパン屋
 さん、クリーニング屋さん、
 福祉施設、病院、また個人の
 ご家庭などに置かせて頂いて
 います。皆様の善意の1円玉
 で一人でも多くの赤ちゃんの

誕生に繋がって欲しいと願っ
 ています。

一方、世の中の状況を見た
 時に、乳幼児虐待やいじめに
 よる自殺、また昨年7月相模
 原市で起きた「津久井やまゆ
 り園」の惨劇は、決して許す
 ことのできない、いのちの選
 別につながる悲しくやりきれ
 ない事件でした。小さいの
 ち、弱いいのちが失われる事
 件が後をたちません。

ある統計によると、人工妊
 娠中絶によって失われる命が
 届け出だけで年間18万人、1
 日500人のお腹の赤ちゃん
 のいのちが失われていること
 を知り、驚きと悲しみでいっ
 ぱいになります。

こうした悲しい現実を少し
 でも少なくし、妊娠、出産、
 子育てが安心してできる社会
 を願って、ささやかな活動を
 続けています。

基金箱の集金に伺いながら
 毎月生命尊重センターから発
 行される、温かい思いがいっ
 ぱい詰まった小さな冊子「生
 命尊重ニュース」を一緒にお
 届けします。

わが町からも円ブリオペ
 ビー誕生！のニュースが発
 信できたらと密かに願って
 いるところです。

今後とも私たちの活動に、
 ご理解とご協力をよろしくお
 願い申し上げます。

いのちの深呼吸を 神様と静かに過ごすときを持ちましょ

イタルポ 静けさの中で神とひびく

個人同伴による祈りの招き☆ルカ(池永)
 2017年11月16日(木) AM9:15 ~ PM4:30.

オリエンテーション
 Sr.野本佳子 柳田敏洋神父

導入
 ヴィパッサナ瞑想
 呼吸瞑想

講話
 みことばを読む
 ☆詩・34
 ☆マタイ 25.31-40

面接
 神のこぼれ
 共に歩む
 より深められるように

ランチ前
 食べる瞑想
 口の中の接触感覚を意識
 本質を感じとる

3時ミサ後
 お茶と分かち合い

「ヴィパッサナ」(パリ語)
 はきり見る
 あるがままに洞察

イェスが伝えた
 「神の国」に目覚めゆく瞑想法
 イェスの心を理解招助けとなる

①目を閉じ
 ②おなかに
 片手をあてて
 1分呼吸=1回

みえない神と
 波長を合わせ
 波長がとんで
 届けるのが
 「みことば」

神を賛美
 自分の人生
 ささげてください

マタイ 25.31-40
 天国に行くために
 態度に
 接しな

汚すものは
 何もない
 外

中から
 出てくるものが
 汚す(マルコ7.15)

弱さ 醜さ
 後ろ向き
 神が働く
 とときも

イェス会の
 霊性センタ「せせらぎ」主催
 「一日の祈りの集い」
 (年3回・第3木曜日)
 祈りの同伴者・柳田 神父と
 せせらぎ・祈りの会の同伴者

感謝
 喜び
 賛美
 原動力
 同伴者

おいしい!
 ありがとうございます!
 えあは!

舌は上手に
 まわってるか?



会場風景 (信徒ホール)



ギターアンサンブル



フィリピンダンス

林神父のギターで全員合唱



汚れなきマリア修道会シスターの合唱



編集より 汚れなきマリア修道会の姉妹五人が祖国ベトナムのクリスマスについて寄稿してくれました。今回は増ページして一挙掲載します。

犠牲献金

中高生会

- 9月17日 7,166円 (ペロニカ苑へ)
- 10月1日 5,660円 (ペロニカ苑へ)
- 11月12日 2,350円 (ペロニカ苑へ)



ヨゼフ会男声合唱



ライアー演奏

信者動静

2017年7月～12月

(個人情報のため、削除しています)

降誕祭と新年のミサ

☆待降節第4主日ミサ 12月24日(日) 7:30/10:30

☆主の降誕祭ミサ

イブ(24日)のミサ前にミニコンサートを行います	夜半ミサ	17:00
	12月24日(日)	19:30
	日中ミサ	22:00
	12月25日(月)	10:00

2018年

☆新年のミサ 1月1日(月) 00:00 / 11:00